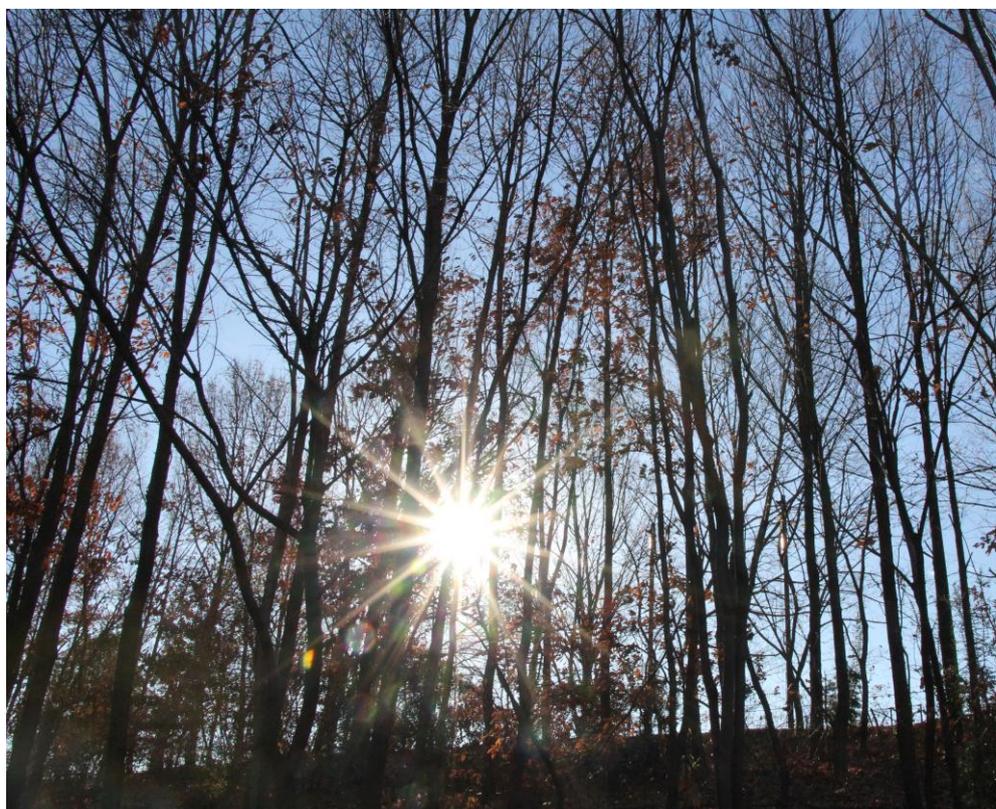


第111回フォト句優秀作品（20年12月8日）



薪ストーフに  
薪入れ楽しむ  
孫らこぬ  
（浩平）



葉も落ちて奥まで入日  
冬木立（進一郎）



寸評：

1) ストーブに薪入れ楽しむ孫らこぬ 大越 浩平

コロナのため冬休みに楽しみにしていた孫たちが来ないという。孫に対する愛情と寂しさが入り混じったよい作品だ。

2) 葉も落ちて奥まで西日冬木立 長尾 進一郎

枯れた林を透しての冬の低い太陽を撮った。撮影のアングルもさりながら「冬木立」という適切な季語を用いた句もよい。

3) 紅葉の峰に寝そべる白くじら 松田 昌康青空と

紅葉に挟まれた雪の峰を白鯨と表現したセンスを買いたい。

## 御題写真



寸評：大越さんの出題で、笹塚にある町田製薬（株）の広告

1) 無いかいな政界の膿吸出し用 松田 昌康

「たこの吸出し」は腫瘍（おでき）用の塗り薬で現在も販売されている。政界の膿はとめどもなく、効き目のある薬は選挙民の良識のみであるとは情けない。

2) 反魂胆たこの吸出し痔のヒサヤ 大月 和彦

この作者大月さんは、いつもきれいな句を提供してくれるが、今回はおでき薬の羅列に終わった。反魂胆は代表的な富山の薬で腹痛に卓効ある由。

3) タコ野郎に負けてたまるかバキュームカー 三 春

この作者の感性に付いてゆくのは容易ではない。言いたいことは漠然とは判るのだが…、

以 上